

説教

聖日礼拝

北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2017年3月19日（日）

主 題：「真の仲保者を知っていますか」

—与えられた特権—

テキスト：ヘブル人への手紙5章5－10節

はじめに

- ・米国のある教会において、牧師が天秤を使ったメッセージをしました。牧師は教会員の兄弟に、天秤を作ってくれるよう頼み、それをメッセージの中で使いました。
 - ・彼は、天秤の片方に小さな石を載せ、もう片方には紙コップを置きました。すると当然ながら、はかりは小石の方に傾きました。次に牧師は、古代世界では金や銀の重さを天秤ではかっていたことを説明しました。あらかじめ重さが分っている小石を片側に置き、もう片側に金や銀を載せていきました。そして天秤が水平になったとき、金や銀の重さをはかりました。
 - ・牧師はこう説明しました。「紙コップは私たちが象徴しています。私たちの姿は、神の義が要求する水準にまで達していません。ヨハネ黙示録には、次のように書かれています。5:12 彼らは大声で言った。「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。」
 - ・ほふられた小羊とは、十字架にかかれたイエス・キリストです。牧師は、天秤の紙コップ内に、片方に載せられた同じ重さの小石を入れました。すると天秤は水平となりました。「この後から入れられた小石は、イエス・キリストを象徴しています。私たちは紙コップのように何もない軽いものですが、そこにイエス・キリストがお入りくださったのです。そして、神の義が要求する水準に達することができるようになったのです。
 - ・私たちは創造神の前には、価値がないようなものです。しかし神は私たちを、金や銀よりも尊い存在と見てくださっています。そして、イエスがお入りくださり、価値ある存在としてくださいます。神を信じるキリスト者とは、実はそのような存在です。それは信じる者に与えられた特権であります。
- では、そのイエス・キリストはどんなお方でしょうか。 2点

大切なポイント**1. 真の大祭司であるイエス**

- ・ヘブル人への手紙5章のはじめで、大祭司には4つの資格が必要であることを学びました。大祭司とはそもそも神と人との間に立つ仲保者です。人間は中保者なしでは、神の前に立てません！ 今日箇所では、それがすべてイエス・キリストに当てはまること証明されています。

1) 4つの資格の成就

①大祭司は「人」でなければならない

- ・イエスは神から召されて、大祭司としての栄誉を得ました。これを証明するために、著者は詩篇の聖句を引用しました。

(1) 5:5 「あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。」

詩篇 2 : 7 の引用

(2) 5:6 「あなたは、とこしえに、メルキゼデクの位に等しい祭司である。」

詩篇 110 : 4 の引用

②大祭司は祭司階級に属する者でなければならない

- ・祭司はアロンの家系であることが必要でした。イエスもアロンの大祭司と同じです。

③大祭司の務めは「人々を思いやる」こと

- ・イエスは弱い人々のことを思いやることができました。 **マタイ福音書**

9:36 イエスはまた、「群衆を見て、羊飼いのない羊のように弱り果てて倒れている彼らをかかわいそうに思われた。」イエスは、祭司としての役割を果たされました。

④大祭司は、神の任命を受け、神から選ばれた

- ・イエスは祭司としての役割を果たしました。しかもアロンの大祭司ではなく、「メルキゼデクの位に等しい大祭司」としての役割を果たされました。キリストの祭司職は、旧約聖書時代の祭司職よりはるかに勝る、神の大いなるご愛によるものです。イエス・キリストは真の大祭司です。

2) 真の大祭司イエス・キリスト

- ・5:7 キリストは、人としてこの世におられたとき、自分を死から救うことのできる方に向かって、大きな叫び声と涙とをもって祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられました

- ・これはイエスが十字架にかかれる前夜、ゲッセマネの園で祈られた時の姿のようです。イエスは苦しみもだえ、いよいよ切に祈られました。汗が血のしたたりのように地面に落ちました。 **ルカ福音書**

22:44 イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。

とくにこの箇所は、私たちの心を強く打ちます。キリストは「この杯（十字架）を取りのけてください。」と祈られました。しかし最後は自分の願いではなく、「神のみこころなること」を祈られました。

- ・私たちはイエスの苦難を思い出し、イエスの足跡をたどるべきです。イエスは苦しみに遭われました。しかしそれでも天父神に従順でした。ヘブル人への手紙の著者は、キリストは「その敬虔のゆえに聞き入れられました。」と述べました。イエスはご自分が苦しみの道を通られましたから、ご自身に従うすべての人々を助けることがおできになります。
- ・いかがでしょうか。私たちは今、何かで心悩ましてはいないでしょうか。何かで苦しんではいないでしょうか。もしそうであるならば、イエスが歩まれた道を思い出してください。イエスの苦難の意味について、考えてみてください。そこに神の

ご計画があるからです。

- 皆さん。人間は残念ながら、苦しみを通して初めて学ぶものです。私たちはさまざまな失敗、過ちを犯します。そして多くの場合、失敗、過ちを繰り返します。ユダヤの賢者は言いました。「賢者とは自分の失敗を通して学ぶ人ではなく、他人の失敗を通して学ぶ人である。」その意味では、私は賢者とは、決して言えません。
- しかし、ここに失敗ですまない問題があります。⇒それは「罪」という問題です。罪はどんな場合でも必ず清算しなければなりません。しかも、人が神の前で犯す罪は、自力で清算出来る程度のものではありません。あまりに罪の負債は大きいからです。
- アガペー愛である神は、その罪の清算のために御子イエス・キリストをお送りくださいました。イエスは十字架にかかり、死んで、三日目に復活されました。死を打ち破られたイエスを信じる者は、イエスの十字架の御血によって、罪が清算されました。ここに救いがあります。
- 御子イエスは父なる神に従順に従われました。そして神と私たちとの仲保者となられ、今も私たちのためにとりなしてくださっています。信じるだけで救われる道を、神は開いてくださいました。なんという幸いではありませんか。

2. メルキゼデクの位に等しい大祭司

- 5:8 キリストは御子であられるのに、お受けになった多くの苦しみによって従順を学び、
- 5:9 完全な者とされ、彼に従うすべての人々に対して、とこしえの救いを与える者となり、
- 5:10 神によって、メルキゼデクの位に等しい大祭司となえられたのです。

1) エルサレムの王メルキゼデク

- イエスはなぜ、「メルキゼデクの位に等しい大祭司」なのでしょう。イスラエルの歴史の中で、アブラハムは第一の人物です。このアブラハムからモーセ、アロン、ダビデ、エレミヤなど、すべての人物は出てきました。ですから大祭司といえども、アブラハムを越えることはできません。
- ところが旧約聖書でただ一人、アブラハムを越える人物がいました。それが「メルキゼデク」なのです。創世記に次のように記録されています。
 - 14:17 こうして、アブラムがケドルラオメルと、彼といっしょにいた王たちとを打ち破って帰って後、ソドムの王は、王の谷と言われるシャベの谷まで、彼を迎えに出て来た。
 - 14:18 また、シャレムの王メルキゼデクはパンとぶどう酒を持って来た。彼はいと高き神の祭司であった。
 - 14:19 彼はアブラムを祝福して言った。「祝福を受けよ。アブラム。天と地を造られた方、いと高き神より。
 - 14:20 あなたの手に、あなたの敵を渡されたいと高き神に、誉れあれ。」アブラムはすべての物の十分の一を彼に与えた。
- このメルキゼデクという人物は、いったいどのような人で、両親はだれなのか一切不

明であります。ヘブル人への手紙

7:3 父もなく、母もなく、系図もなく、その生涯の初めもなく、いのちの終わりもなく、神の子に似た者とされ、いつまでも祭司としてとどまっているのです。

- ・この祭司メルキゼデクが、アブラハムを祝福しました。祝福は目上の人が目下の人に与えるものです。アブラハムはこの祭司に、戦利品の中から十分の一を贈りました。これを見てお分りのように、イスラエルの歴史の中で、すなわち旧約聖書の中で最も偉大な人物は、メルキゼデクであったと言えます。
- ・イエス・キリストを大祭司という時、それはアロンの家系からの大祭司ではなく、このメルキゼデクの位に等しい大祭司であるということです。

2) メルキゼデクの位に等しいイエス

5:6 「あなたは、とこしえに、メルキゼデクの位に等しい祭司である。」

詩篇110：4の引用

- ・マタイの福音書1章はじめに、イエス・キリストの系図が書かれています。注意して読んでいくと、ダビデの子孫からキリストが出ることが分かります。その方こそイエス・キリストです。そのお方は、メルキゼデクの位に等しい永遠の大祭司として立てられたお方です。永遠の大祭司であるイエス・キリストは、今も天においてとりなしをしてくださっています。

ヘブル人への手紙

7:25 キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。

- ・キリストは大祭司となっただけではありません。この時まで、千数百年の間、大祭司が自分たちの罪の身代わりとして牛や羊、山羊などの血を捧げてきましたが、キリストはご自身を完全ないけにえとして捧げて下さいました。
- ・このキリストの犠牲によってイスラエルばかりではなく、全人類は動物の犠牲を捧げる必要がなくなりました。キリストの十字架によって、それまで守られてきた贖罪日は不要となりました。キリストが「永遠の救いの源」となってくださったからです。

新共同訳聖書

5:9 そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々 に対して、永遠の救いの源となり、

- ・ですから、今やユダヤ教徒、イスラム教徒、仏教徒などの区別はありません。すべての人はイエス・キリストが自分の救い主と信じるならば、永遠の救いの恵みに与ることができます。

{例 話} 欧州で回心する多数の中東難民たち

- ・一昨年来、中東難民が大挙として押し寄せているドイツで新しいことが起こっています。南ドイツ・シュトゥットガルト (Stuttgart) には、ドイツ最大のカリスマ派教会「ゴスペル・フォーラム」があります。
- ・昨年約40人もの中東難民(着の身着のまま脱出したムスリム)が、イエス・キリストを救い主と信じ、洗礼を受けました。ムスリムが信じるアラーの神は律法の神で

す。律法を破れば裁きが来る恐ろしい神です。しかし聖書の神は、愛の神です。罪を赦してくださる神です。彼らはその愛の神に出会ったのです。

- ・その人数は、昨年の教会で受けた受洗者数の20%にあたります。受洗者全員は洗礼準備クラスを受講し、洗礼に与りました。
- ・この教会はアラビア語とペルシャ語による家庭集会を開き、聖日礼拝では12言語に同時通訳されています。ペーター・ヴェンツ (Peter Wenz) 主任牧師は、「教会は霊的センターとして、インターナショナルの宣教をすべきである。とくに難民はキリストの愛を受けるべきである。」と語っています。
- ・「ゴスペル・フォーラム」教会は、難民に衣類提供をはじめ、家事手伝い、言葉の助けなど多面的、そして積極的に支援活動を行っています。ヴェンツ牧師は、「難民もドイツ人も、同じように神の愛と力を体験すべきである。」と語っています。教会スタッフ数は40人で、週末には80カ国以上から5千人もの人々が集まっています。正しく、神が生きて働いておられる教会です。

聖書：「ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。」 ガラテヤ3:28

- ・イエス・キリストこそ、ユダヤ人も異邦人も救いへ導くメシアです。そして神と私たちとの間の仲保者です。今も私たちのために、とりなしをしてくださっています。なんという幸いではありませんか。

ま と め

主 題：「真の仲保者を知っていますか」

—与えられた特権—

- ・今日、私たちはイエス・キリストは真の大祭司であることを学びました。このお方こそメシアであり、救いの源であり、真の大祭司です。私たちは行いによるのではなく、ただ信じるだけで、永遠の命をいただく贈物をいただきました。イエス・キリストは、天父神と私たちとの間の真の仲保者です。

- ・では、私たちはどう生きるべきでしょうか。

次のみことばをもって、まとめたく願います。

1. 信仰を堅くもつこと

- ・今の時代も、信仰がふるいにかけてられる時代だからです。ですから、自分の軸足を、しっかりした岩の上に置かなければなりません。

4:14 さて、私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の子イエスがおられるのですから、私たちの信仰の告白を堅く保とうではありませんか。

2. 大胆に恵みの御座に近づくこと

4:16 ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

- ・私たちの神は愛の神、罪を告白するものを赦してくださる神です。私たちは罪赦されて、大胆に恵みの御座に近づくことができます。感謝。

* God bless you!